令和7年 第1回

君津市教育委員会会議録

日時：令和7年1月23日（木）午後4時00分

場所：5階大会議室

令和7年第1回君津市教育委員会会議録

- 1 日 時 令和7年1月23日(木) 午後4時00分開会 午後5時11分閉会
- 2 場 所 5階大会議室
- 3 出席者 教育長 粕谷哲也
委員 小倉洋一、佐藤 薫、増田亜紀、渡邊俊介
- 4 出席職員 教育部長 丸 博幸、教育部次長(事)教育総務課長 茂木 一也
教育部副参事(事)学校教育課長 諏方壽一郎、学校教育課管理担当主幹 植田 庸介
教育センター所長(兼)教育支援センター所長 小嶋 裕一
教育センター主査 根本 梨絵
学校給食共同調理場長 庄司 博、中央図書館長 高橋 さよ
(事務局) 教育総務課副課長 岡本 忠大
- 5 傍聴人 なし
- 6 会議日程 日程第1 前回会議録の承認について
日程第2 教育長報告について
日程第3 議案第 1 号 令和6年度君津市優秀な教職員表彰について
議案第 2 号 君津市図書館規則の一部を改正する規則の制定について
報告第 1 号 専決処分(後援関係)の報告について
報告第 2 号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の報告について
報告第 3 号 君津市学校給食費の管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
議案第 4 号 「君津市教職員の働き方改革プラン」の改定について

粕谷教育長

ただいまの出席者は全員で、定足数に達しておりますので、これより、令和7年第1回君津市教育委員会会議を開催します。

粕谷教育長

日程第1 前回会議録の承認について、を議題といたします。

事前にご確認をいただいておりますが、各委員から何かお気づきの点はございますか。

粕谷教育長

ご意見等も無いようでございますので、採決を行います。前回会議録の承認について、賛成の委員の挙手を求めます。

【全員挙手】

粕谷教育長

挙手全員。会議録につきましては、承認されました。

粕谷教育長

日程第2 教育長報告について、1月に出席した行事及び出席予定の行事についてご報告いたします。

内容は一覧のとおりでございますが、はじめに、6日に行いました第24回松柏学園・大志万学院訪日使節団歓迎会について、ご報告いたします。

ブラジル・サンパウロ市の松柏学園、大志万学院と上総小学校、小櫃小学校、上総小櫃中学校は姉妹校締結しており、相互の児童生徒・先生が訪日と訪伯を交互に実施し、生徒・関係者等の家庭にホームステイする等、永きにわたり交流が続いております。

歓迎会当日は、小倉委員も、小櫃海外交流推進協議会の副会長としてご来庁いただきましたが、折り鶴等を準備した会場において、市長、副市長、日伯友好議員会会長をはじめ、多くの職員が参加し、使節団52名を出迎えさせていただきました。

会では、記念品として、「きみぴょん」のグッズを贈呈のほか、君津市民の歌の斉唱、訪日使節団の団長からは、日本語でのあいさつがあり、その後の昼食会をとおして、交流を深めさせていただきました。

次に、12日に行いました令和7年20歳のつどいについてご報告いたします。

主催としてご出席いただいた委員のみなさま、誠にありがとうございました。今回は学校再編により周東中学校が開校してから丸5年が経過し、再編初年の3年生がちょうど20歳を迎える会となりました。これまでの小糸中学校区、清和中学校区のつどいを、今回新たに周東中学校区として開催し、これにより10地区での開催となりました。

当日は、市、全体では総勢588名の参加がございました。

私は、生涯学習交流センターで行われた周西南中学校区20歳のつどいに出席しました。88名が参加し、市長あいさつ、来賓からのお祝いの言葉では、未来の地域社会を担う若者への期待が寄せられました。実行委員企画では6名の実行委員が運営にあたり、「明るい未来への第一歩」と題し、インタビュー、実行委員長の決意表明、来賓とご家族合わせて全体でのお祝いのクラッカーなど、たいへん和やかなつどいとなりました。

報告は以上でございます。

粕谷教育長

ご質問等、ございますか。

佐藤委員

20歳のつどいで周東中学校に参加させていただいたのですが、市長さんが、しきりに言っていたのが、体育館を使っていたのでスリッパではなくて、きちんと草履を履かせた方がいいとおっしゃっていました。私は体育館だから仕方ないと思って聞いていたのですが、壇上に上がった振り袖の女の子が下りる時にスリッパは引っかかりが良くないので落としてしまいました。転ばずに済んだので良かったのですが、安全面のことを考えると、今後、上総小櫃中でも体育館で行うかもしれませんので、何か配慮が必要かと感じました。

粕谷教育長

晴れ着を着た女性が、壇上に上がる時、下りる時に不安があるということで、スリッパを履いているのですか。

佐藤委員

上がる時は大丈夫なのですが、一段ずつ下りる時にどうしてもつま先が下がるので、草履であれば鼻緒が引っ掛かるのですが、スリッパだとスポッと脱げてしまって、転ばなくて良かったのですが、そういうことを感じました。

小倉委員

体育館だから草履ではなくてスリッパということで、公民館とかであれば、そのままですから。

粕谷教育長

今回は、外履きでも入れるような設定になっていなかったということで、外履きなら何の問題もないかという、来年は上総小櫃中でも、まだどこで実施するかは、これから協議になりますけども、こういった点も配慮していかなければいけないと思います。担当課に伝えておきたいと思います。

粕谷教育長

他に質問等も無いようでございますので、日程第3議事に入ります。

本日の案件は、議案2件、報告4件でございます。このうち、議案第1号については、人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、非公開による審議としたいと思いますが、このことについて、賛成の委員の挙手を求めます。

【全員挙手】

粕谷教育長

挙手全員。よって、議案第1号については、非公開により審議いたします。なお、議案の審議は、議事進行の都合上、日程の最後といたします。

粕谷教育長

はじめに、議案第2号 君津市図書館規則の一部を改正する規則の制定について、を議題といたします。議案第2号について、事務局の説明をお願いします。

高橋中央図書館長

君津市図書館規則の一部を改正する規則の制定についてご説明いたします。

本議案は、中央図書館及び市民体育館分室における開館時間及び休館日の見直しにより、君津市図書館規則の一部を改正しようとするもので、君津市教育委員会行政組織規則第4条第2号の規定により、議決を求めらるるものでございます。

中央図書館で、現在実施しております毎週金曜日の1時間の開館時間延長及び火曜日から金曜日の祝日開

館につきまして、平成31年4月の開始当初、社会人や生徒、学生の利用者の増加を見込んでいましたが、現在、図書館の利用者が総体的に減少しているなかで、増加を見込んでいた利用者層も来館者が少なく、開館時間を拡大したことに対する効果が得られていないことから、現状に即した見直しを行うものでございます。また、利用が減少している市民体育館分室についても、開館時間及び祝日開館について見直しをするものでございます。見直しの内容につきましては、中央図書館の金曜日の開館時間を現行19時までのところ18時までとし、また、火曜日から金曜日の祝日を休館日とするものでございます。市民体育館分室は、閉館時間を3時間早め、17時を14時とするとともに、中央図書館と同じく、火曜日から金曜日の祝日を休館日とするものでございます。

図書館規則の改正箇所につきまして、新旧対照表でご説明します。開館時間につきまして、第4条第1項の表のうち、君津市立中央図書館の項中現行の「(金曜日は午前10時から午後7時まで)」を削り、同表の君津市立中央図書館市民体育館分室の項中「午後5時」を「午後2時」に改めるものでございます。

次に休館日につきまして、第5条第1項第2号から第4号までを、それぞれ第3号から第5号へ、号数を繰り延べ第5条第1項第1号の次に、第2号として、「国民の祝日に関する法律に規定する休日(日曜日及び土曜日を除く。)」と加えるものでございます。また、第5条第3項中「毎週月曜日」の次に同じく、火曜日から金曜日までの国民の祝日を休館とする旨の文言を加えるものでございます。

施行期日につきましては、令和7年4月1日でございます。

説明は以上でございます。よろしく、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

粕谷教育長

事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。

粕谷教育長

質問等も無いようでございますので、採決を行います。

議案第2号 君津市図書館規則の一部を改正する規則の制定について、賛成の委員の挙手を求めます。

【全員挙手】

粕谷教育長

挙手全員。よって、議案第2号は原案のとおり可決いたしました。

粕谷教育長

次に、報告第1号 専決処分(後援関係)の報告について、を議題といたします。報告第1号について、事務局の説明をお願いします。

茂木教育部次長

報告第1号 専決処分(後援関係)の報告についてご説明いたします。

12月の教育委員会会議にて報告させていただいた以降に、専決処分し、後援を承認した行事について報告いたします。案件は6件ございますが、このうちの1件について説明いたします。1月7日に承認いたしました「第14回アクア将棋大会」は、日本の伝統文化である将棋の普及、青少年の健全育成及び成人の自

己実現を図ることを目的として、令和7年2月23日（日）に木更津市金田地域交流センターにて開催するものです。その他5件につきましても、行事の後援に関する規程に基づき、後援を承認し、君津市教育委員会行政組織規則第8条第1項第7号の規定により、専決処分をしたので、同条第2項の規定により報告するものです。

以上でございます。

粕谷教育長

事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。

粕谷教育長

質問等も無いようでございますので、次に、報告第2号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果の報告について、を議題といたします。報告第2号について、事務局の説明をお願いします。

小嶋教育センター所長

報告第2号「令和6年度全国学力・学習状況調査結果」の報告についてご説明いたします。

まず、小学校の国語ですが、君津市は、全体的に各領域で、全国・千葉県と比較すると下回っている状況です。領域別にみると、「知識・技能」の領域で、平仮名を漢字に直す問題で、「競技」と「投げる」という漢字を書く問題が解けず、正答率が最も低くなりました。正答率の低い問題を見てみると、本市の課題として、「問題文で問われている内容の把握ができていない」、「漢字が書けない」、「物語などで主語・述語の関係を読み取ることができていない」等の点が挙げられるかと思えます。

これらの対策として、「問題文で問われている内容の把握ができていない」については、教科書や様々な文章を読む際に、問われていることや、文章中の指示語などが示している内容や意味を考えたり、文章にラインを引き確認をしたりしながら読むようにしたりします。また、読書の際に活字を読む頻度を増やすことで、文章を読むことに慣れるようにしたり、わからない語句を辞書やタブレットで調べ、語彙を増やしたりすることで読解力を養い内容の理解ができるようにする等の対策がとれるかと思えます。「漢字が書けない」ことについては、漢字を使って言葉や文章を書く機会を増やすようにします。当該学年で配当されている新出漢字を確認した後、その漢字を用いた熟語や文章作りを行い、日常的に使う頻度を増やすことで漢字の習得を図るようにします。「物語などで主語・述語の関係を読み取ることができていない」ことについては、主語と述語の意味を確認し、ドリル的に問題文を解く機会を設け理解を図るようにします。また、長文の文章も読む機会を増やし、主語と述語の関係を捉えながら文章を読むことに慣れるようにすることも有効と考えます。

小学校、算数ですが、全国、千葉県と比較すると、君津市は下回っております。領域別にみると基礎・基本となる「数と計算」の領域で平均正答率が低く、評価の観点で見ると「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、市の平均正答率は「知識・技能」が全国、千葉県の正答率より下回っています。それに伴い「思考・判断・表現」の観点でもさらに差が広がっています。本市の課題として、「小数のわり算を苦手としていて、正答率が低くなっている」、「計算ができない」、「わり算になる文章の読解ができず立式ができない」、「式の意味を読み取ることが苦手としている」、「速さ・時間・道のりの問題では、図があるものは回答できるが、文章だけの問題では意味を読み取れず、解くことができない」、「直方体など多面体の見取り図から、展開図はイメージできるが、円柱や球など見取り図と展開図の形が大きく異なるものはイメージができない」、「図形の問題で図からイメージし、円周や体積など読解力を要し計算する問題を苦手としている」

これらの対策としましては、「少数のわり算が苦手」「計算が苦手」「文章の読解ができず立式できない」ことには、小数点の移動などを確認することや自ら立式できるように、問題文と線分図などを関連させるなど、丁寧な指導が必要であると考えます。「式の意味を読み取ることが苦手」については、問題文、図、式を相互に関連させた指導をすること。また、式から、図を選んだり、問題文を作ったりする活動をすることで、式がどんな意味で立てられているのか理解できると考えられます。「速さ・時間・道のりの文章だけの問題の意味の読み取り」については、文章から何がどこの部分に当たるのかなど、図に表すところを丁寧に指導し、板書では、常に図に示すようにし、児童が把握しやすいように支援をすることが重要だと考えます。「円柱や球など見取り図と展開図の形が大きく異なるもののイメージがわからない」ことについては、ICTだけに頼らず、具体物を用い操作活動を通して、どこがどんな形になり、どこの部分にあるのかイメージができるよう、児童の実態に合わせた指導が必要であると考えます。

続いて、中学校ですが、中学校の国語では、全体的に各領域で、全国・千葉県と比較して下回っている領域もありますが、知識・技能の「情報の扱い方に関する事項」の問題は、全国・県の平均正答率を上回りました。全国・県と比較し大きく下回ったのは、知識・技能の領域での問題で、表現技法である「体言止め」について、短歌から読み取ることができずに平均正答率が最も低くなりました。本市の課題として、「文章を読み、本文中にある図の役割について正しく把握することができていない」、「文章の表現技法について理解をすることができていない」、「表現を工夫して物語の最後の場面を書いたり、自分が工夫した表現の効果を書いたりすることができていない」等の点が挙げられるかと思えます。

これらの対策として、「文章を読み、本文中にある図の役割について正しく把握することができていない」ことについては 図の役割について正しく把握することができていないということは、文章の内容が理解できていないために、図の目的や意味がわからないということが考えられます。そこで、普段の学習で、文章の内容を理解できるようにじっくりと読んだり、語句の意味がわからない場合は辞書やタブレットで調べ、語彙を増やしたりすることで読解力を養うようにすることが考えられます。「文章の表現技法について理解をすることができていない」ことについては、「体言止め」や「倒置法」など、文章に使われる表現技法について、名称やどのような効果があるのかについて確認をします。その後、ドリル的に表現技法を使った文章について問題を解くなどし、その効果について理解を図るようにすることも有効と考えます。「表現を工夫して物語の最後の場面を書いたり、自分が工夫した表現の効果を書いたりすることができていない」ことについては、表現の効果については、例えば、「余韻を残す書き方」などの表現の効果がある文章と、ない文章を比較させてその効果の違いについて理解を図り、自分の作品に活かすようにすること等が考えられます。

最後に中学校の数学は、君津市は、全国・千葉県と比較して平均正答率が下回っています。領域別にみると基礎・基本となる「数と式」の領域で平均正答率が下回っており、評価の観点で見ると「知識・技能」が全国平均正答率と県の平均正答率を比較すると差がわずかなことから、県としては「知識・技能」について改善傾向がみられるが、市の平均正答率は全国・県より下回っています。したがって「思考・判断・表現」の観点でもさらに差が広がっていると考えられます。本市の課題としては、「文字を使って式を表すなど一般化することを苦手としているため、説明をすることや、読解力を問われる問題について何をしてよいか読み取れないために、無回答も多くなってしまっている」、「文字が含まれた式の意味を理解することを苦手としているため、方程式の意味を理解して解くことができない」、「図形の証明を苦手としている。」

これらの対策としましては、「文字を使って式を表すなど一般化することを苦手」なことについては、具体的な数字をあてはめ、理解できたら n や x の文字に置き換えるなど丁寧に指導していくと基礎学力定着につながっていくと考えます。「文字が含まれた式の意味を理解することを苦手なこと」については、グラフ・式・

表など相互に関連させ、様々な見方・考え方ができるよう操作活動も大切にしながら授業を行うようにすることです。また、図形の性質など基本事項を繰り返し確認し、図と証明に色チョークで印をつけながら対比させ、視覚でとらえやすくすると理解しやすくなると考えます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

粕谷教育長

事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。

小倉委員

勉強は、できればいいものではないと思いますけども、でもできないよりかはできた方がいいと思います。特に小学校の国語と算数について、「漢字が書けない」「計算ができない」というのが課題の中に入っているというのは、どうかと思います。漢字と計算は、国語と算数でこれできていないというのは問題ではないかと思いますが、どうでしょうか。

今、私たちがやっていたようなドリル的なものはないのですか。十数年前に私の子どもはドリルに直接書き込んでいて、ドリルというのは繰り返しグリグリやるからドリルであって、ここに書き込んだら1回しか練習できないと怒ったことがあるのですが、「いいんだよこれで」と言っていたので。とりあえず漢字と計算ができないというのは問題ではないかと思います。

佐藤委員

私はこの全国学力・学習状況調査は、そんなに重要視しなくてもいいという思いを持っていますが、タブレット学習が始まって、短時間に個別に応じた基礎基本の漢字や計算のような練習できて、苦手なものに対応する問題を解けるようなシステムに変わって、小倉委員のおっしゃった漢字や計算の部分は伸びて欲しいと思っていたので、このテストでなくてもいいので、ベネッセの新しく取り入れた学力テストでもいいので、タブレット学習に変わって、これだけ子どもたちが頑張っているという成果が表せるものはないのかと、ここでは「競技」と「投げる」という漢字だけでしたけど、小学校の算数での図形の展開とかも問題数的に少ないので、このパーセントがどうのこうの言うつもりはないですが、どこかで新しく教育が変わった成果が表れて欲しいという思いがあるので、この結果の数字だけを見ると少し残念だという思いはあります。

粕谷教育長

基礎基本、漢字計算の定着度について、また実際にタブレットという新しい学習機材を使っただけの学習成果がもっと表れてもいいのではないかという意見でしたけども、その点についてはいかがですか。

小嶋教育センター所長

小倉委員がおっしゃったように、漢字計算ドリル等は学校によりますけども使っている学校は多くあります。繰り返しドリルは学校、担任の指導法によりますけども、直接書かないで、繰り返しノートに何度も書くという指導をしているところもあります。やはり漢字と計算は基本中の基本の大事な部分は学校現場でも、これを習得させるのに悩み種の一部でありますので、このへんは当たり前のように繰り返しやって指導しているかと思いますが。しかしなかなか習得できないところは、子どもの実態に合わせて指導の方法を今後考えていかなければいけないと思っております。基礎基本については、そのような考えでおります。

タブレット学習については、タブレット学習でも繰り返し行うとか、段階を追って次のステップもできるというものもありますけども、先に進むより前に戻って何度も繰り返すというところが、やはり基礎基本の習得の重要な部分であると考えますので、先に進むより前にやったものをさらに確実にできるという指導法も重要と考えておりますので、またそういう学習の取組について、学校の方に下ろせるように考えていきたいと思っております。

粕谷教育長

2番目のタブレット、ICT機器の活用の在り方については今後工夫等が必要になってくるというところだと思います。

佐藤委員

小学校の算数の対策のところに「ICTだけに頼らず、操作活動の重視」と書いてあるのですが、おそらくつまずいた問題が円柱の展開図のところだと思うのですが、体験していれば、これは短いとか、これは長すぎるとか、操作活動をしていけばある程度は分かる問題ではないかと思いましたが。時間も短い中で、見てみようということで、タブレットで見ただけでは身に付かないものなので、ここに書いてあるようにやはり操作活動は大事で、それはなくしてはいけないものだと思います。そこに補助的にタブレット学習、ICTを使うのはいいけども、漢字とかは繰り返しやって、操作活動も重視していくことは大事であり、このテストを見て何が足りなかったのか、少し悲しかったところがあるので、具体物を使って自分で苦労して、時間は掛かるかもしれないけども操作させてみることは大事だと思うので、忘れないで欲しいと思いました。

渡邊委員

小中学校を通して見た中で、繰り返し「読解力」という言葉が解決策の中にたくさんありましたが、タブレットで調べると、私たちの頃だと辞書で分からないものを調べる時に、その間いろいろな想像をしながら、どこに何があるのかという感じだったと思うのですが、単純に答えに行き着いてしまうという良し悪しはあると思うのですが、これを良しとするならば、それに応じたテストの仕方とか、私たちの頃イメージしていたものに対する読解力、今の子どもたちはもっとストレートに、問題から答えに対して途中応用するところが少ないことが、良い悪いは野球選手にもたくさんあるので、どちらが正解か分からないのですが、同じテスト結果で、できたできないというのがマッチしているのかとか、読解力が必要な問題に対してテスト結果が、点数が高い地区というのは例えばどんな取組をしているのかとか分かれば教えてください。

粕谷教育長

読解力に限定して、それを克服するために工夫している自治体の取組があれば、紹介していただけますか。

根本教育センター主査

読解力をつけるために取組をしている自治体は把握していないのですが、まず国語、算数・数学というところで確かに読解力というのは本市だけに限らず、全国的に読解力は課題になっております。中学校で教えていたけども高校入試で国語の「図の役割について正しく把握することができていない」というのは国語だけの問題ではなく数学で出てくるグラフや図というのが、理科や社会も英語も問題文の中に含まれて

いるので、特定の教科だけができればいいというものではなくて、数学でやったものが国語、理科、社会、英語につながりますし、理科や社会で出てきたグラフを見た時に算数・数学でやっていたものだということで指導者側がそういうところを意識して指導していかなければいけないかと思います。

先日、秋田県のICTを活用したオンライン研修会で授業を見させていただきました。秋田県ではICTの活用という中でICTも活用するけど、先ほど佐藤委員もおっしゃった操作活動で実際触るものと両方用意した授業でした。子どもがどちらで説明するか、ICTで説明する方が説明しやすいのか、ものを見せながら説明する方が説明しやすいのか、子どもが選択できるようにしているというがあるので、やはり、この授業はICTではなくて、授業の中でどちらも子どもが触れられるように、子どもが選択できるようにしていくのが、これからはとても大事になるのではないかというのは研修会に参加して感じました。この授業はICTを使うという形もあると思います。この授業の中で子どもがどちらも使えるという形に私たちの考え方も変えていかないといけないというのは感じます。答えにはなっていませんけども以上です。

粕谷教育長

算数・数学の小中での本市の課題の中に「わり算になる文章の読解ができず立式ができない」、「問題について何をしてもよいか読み取れない」どうしてもそちらに目がいってしまいます。問題を出されても何を言っているか分からないと、問題と戦う前にもうそこで勝負がついているみたいで、そのところは非常に懸念すべき大きな課題かと思います。これは算数・数学の授業だけで解決できるものではないし、日頃からみんなで文章を読み取る力をどうやって身に付けていくかというのを学校現場の先生と一緒に考えていかなければ根本的に改善に向かっているかということも、あらためて感じました。また良い実践をお互い紹介し合っ

てグレードアップできるように指導にあたってまいりましょう。

佐藤委員

読解力のところで、調べ学習もタブレットを使うので、分からないところを調べるとパパッと答えにたどり着くので、学力テストもですけど、こういう紙に書いてあって、こういうグラフがあって、次のページにもつながるような形態なので、途中でシャットダウンしてしまうのは、とても分かるような気がします。タブレットとかで可愛いキャラクターがしゃべりながら先に進めてくれたりして、自分が選ぶのだけれども、結局は自分が受け取る学習をしているのではないかと、自分の中で勝手なイメージなのですが、そういうものになってはいけないと、朝の読書等もあるかもしれないけど、きつとこういう活字ばかりのものを読んでいる子どもたちは割合的には少ないのではないかと思うところがあって、本当に活字をしっかり読んで、そこからイメージを広げるような読書活動が、算数・数学、社会、理科とかにも使える読解力につながる一番大事なもののなので、私の孫もスマホやタブレットなどばかりいじっているの、そういう時間をじっくりと読書する時間に変えていく必要があるというか、大事にしていく必要があると思いました。

増田委員

本当に今の子どもたちもそうなのですが、私も古い考えの人間なので、説明書とかは読まない気が済まないですけども、子どもたちは説明書とかは絶対に読まないし、調べものをするにもやはりスマホで調べて、辞書は引きません。でも同じ英語の文章を娘がスマホで調べたのですけども、その意味は出てこないの、私が辞書で調べたら出てきて、辞書も大事だと言ったのですけども、それでも辞書は引かないので、本当に辞書も大事だと思うし、学校で辞書の引き方を教えてもらわないと、今後辞書を引けない子どもになってし

まうと思うので、本当に基礎基本を学校で教えていただきたいと強く思います。

植田学校教育課管理担当主幹

佐藤委員、増田委員のご意見はごもつともだと思えますし、私も各学校の授業を見させていただいて、例えば小学校で言えば、それこそ「けんかした山」とかは、小学校1年生も暗記するまで何回も立って読むような授業もやっています。学校では、やはり本市でも前から言っていますけどもハイブリッドでICTの部分と今まででやってきたような紙を読み解くということは必要ということで、学校も意識をしていると思います。辞書に関して言えば、高校では辞書自体を買わなくなり電子辞書になってしまって、この前のブラジルの子どもたちがきた時もポルトガル語で「次」は何ていうのかと、ポチッとするだけで「Próximo (プロシモ)」って発音してくれるから、そんな感じで話すなど、時代の流れで社会全体がそのようになってきているので、学校教育で行うことは重要だと思えますし、今現場で全部がそうなっているということはないのですが、やはり図形の作業的な時間もあるところでは、教える内容がどんどん多くなって、そんな中で働き方改革という部分で現場でも苦しんでいるところはあるかと思えますけど、どう上手く活用して、どの場面で使うか、どちらを選択するかというのをこれから考えていくべきだと思えます。

粕谷教育長

他に質問等も無いようでございますので、次に、報告第3号 君津市学校給食費の管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、を議題といたします。報告第3号について、事務局の説明をお願いします。

庄司学校給食共同調理場長

報告第3号 君津市学校給食費の管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則の制定についてご説明いたします。

本報告は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律により、健康保険証が廃止されたことに伴い、君津市学校給食費の管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則を制定するため、君津市教育委員会行政組織規則第5条第1項の規定に基づき臨時代理しましたので、同条第3項の規定により報告するものでございます。

改正内容ですが、減免申請時の添付書類の規定を整理するものです。申請書表面の下段、添付書類に関する注意書きを削除します。裏面の中段、添付書類のカッコ書きに「の子等」を加え、添付箇所の説明を「健康保険証の写し」から、「子等の加入医療保険の資格に係る情報（保険者名、被保険者名、保護者又は世帯主名）が分かる書類」に変更しております。施行期日につきましては、公布の日としております。

説明は以上でございます。よろしく、ご審議賜りますようお願い申し上げます。

粕谷教育長

事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。

粕谷教育長

質問等も無いようでございますので、次に、報告第4号 「君津市教職員の働き方改革プラン」の改定について、を議題といたします。報告第4号について、事務局の説明をお願いします。

植田学校教育課管理担当主幹

報告第4号 「君津市教職員の働き方改革プラン」の改定について、説明いたします。

近年、社会環境の急激な変化に伴い、学校を取り巻く環境が複雑化・多様化している中で、学校に求められる役割も拡大してきました。そのような中で、教員の勤務実態調査の結果、長時間勤務の深刻な実態も明らかになっておりました。教員が心身ともに健康で、子どもたちと向き合い、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備することが、学校教育の充実につながると考え、君津市では令和3年7月に「君津市教職員の働き方改革プラン」を策定し、取組を進めてまいりました。

今回、千葉県県の「学校における働き方改革推進プラン」の改定があったことを受け、これまでの成果と課題、教職員の实態を踏まえ、今回改定するものです。

主な改定の内容について、説明します。1点目は、目標値の設定です。目標値を設定するにあたり、市内小中学校の教職員に対し11月に意識調査を行いました。「子供と向き合う時間を確保できている」と感じている教職員の割合は、現在61%。「勤務時間を意識して勤務できている教職員の割合」は85%でした。これまでのプランでは100%を目標値としておりましたが、そこには到達しておらず、大きな隔りがありました。そこで、今回の目標設定値は、県のプランを参考に到達できる目標を設定することとしました。

2点目は、「君津市教育委員会の取組」です。これまでの3年間の取組をもとに、新たに追加しました。ほとんどの学校からもとても有効であったという意見のある「年度初めにおける平日5日間の担保」そして、学校徴収金に対する取組として、「給食費の公会計化の導入、中学校修学旅行業者への直接振り込み制度」こちらについては、学校における事務業務負担の軽減のみならず、適正な管理執行にも効果があるものと考えております。また、学校徴収金のあり方については、今後さらなる方策を検討してまいりたいと考えております。さらに、現在各学校でも日課を工夫し、児童生徒の学びを確保しながら、勤務時間内で効率的に、効果的に教育活動や業務を進める教育課程の編成に取り組んでいるところで、今後も継続してまいります。

3点目は、君津地方4市の取組事例の追加です。こちらは4市の小中学校で取り組んだ事例を集約したものです。本市の学校でもすでに取り組んでいる内容も多くありますが、具体的には学校行事の開催時期や方法、それまでの取組方法などを見直すものや、職員会議や打ち合わせ、校内の事務処理においてICTを活用して効率的に行う事例などです。

今回のプランの改定にあたっては、4市教育委員会事務局の担当者で4回の協議、教育長会議でも2回議題として協議してまいりました。近隣4市では、これまでも連携して取り組んできており、各種行事の調整を図りながら歩んできていること、また、それぞれの市で工夫して取り組んでいる事例を共有し、各学校での働き方がさらに進化できるよう進めてまいりました。袖ヶ浦市、木更津市、富津市においても、今年度中に教育委員会会議にて改定を行うことを申し添えます。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

粕谷教育長

事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。

小倉委員

働き方改革ということで、どこの市でも推進しているとのことですが、先生の中にはこのような働き方改革なんかははしなくていいと言っている先生はいないのですか。

植田学校教育課管理担当主幹

その意識の部分についてですが、今回調査した、「勤務時間を意識して勤務できている教職員」の割合ということで、令和5年度は85%という結果が出ております。これがその意識に近いのかと思いますが、やはり働き方を意識しなくていいと思っている教職員は、ほほいなのではないかと思いますが、自分たちは努力してやっているけど、これ以上どうするのか、やりすぎたら今度は子どもたちの教育活動は、子どもたちのためにやりたいと思うと、そこは手を抜けない。でも働き方は変えたいけど、これ以上やりようがないというジレンマを持っている教職員はいると認識しております。

小倉委員

今まで先生方の志というか善意というか、子どもたちのためにという気持ちで、一般社会でいう残業というのは、本当に先生方のそういう気持ちで支えられてきたと思いますけど、今の社会ですから、そんなことばかり言っていられなくなったので、なるべく教育委員会とかが先生方に、全てを解決する策は、すぐには見つからないだろうけども、こういうふうにした方がいいというのを早く見つけて、先生方にも、さっき植田さんが言ったとように、子どもたちと向き合いたいけど、こっちもやらなければならない、働き方改革もみたいなジレンマが少しでもなくなるようなものを見つけてもらいたいと思います。

渡邊委員

部活動の負担軽減というところで、何名か野球部の顧問をされている先生から、もっと熱心に教えたいという気持ちととても追いつかないという両方ありまして、学校内、教育の現場のみで解決できないところに部活動の問題があるのかと、地域だったり、企業だったり含めた全体的に支えていく仕組みを作っていくか、と、どんどん文化スポーツに関して衰退していってしまうのではないかと危機感を持っています。私の場合、野球の分野だけになってしまうのですが、それ以外も全体でサポートしていくような形にしていけないのかと思っています。すでにそういう動きがあれば教えて欲しいです。

粕谷教育長

文化スポーツを一生懸命やりたいという子どもたちへの指導、それと学校の働き方改革を上手く進める仕組み作り、また現時点での取組について本市で何か紹介できるものがあればお願いします。

諏方学校教育課長

今、渡邊委員のおっしゃったとおり、そもそも部活動は学校の事業ということで、職員の勤務時間は本来7時間45分という中で朝8時くらいからスタートしておりますけども、授業だけで、ほぼその時間が終わってしまうというのが現状でございます。ですから戦後80年近く日本の部活動では、先生方のボランティアで支えられてきたという現状があり、今、新しい先生の採用も非常に働き方の状況によって教員を選ばないという現状も出ております。ですから、この問題といたしましては本来、スポーツの健全な指導の在り方と先生方の働き方と多少混ざってしまっていて、今、苦しい状況にあるというのが現状かと思うところでございます。

本市においては、国と県から出ておりますので、それに従いまして、それに準じて地域移行ということで、現在、試験運用として12月から陸上競技を月2回3月まで実施しているという状況であります。本市とし

ても地域の指導者、そして子どもたちの希望、保護者の思い、こういったところを踏まえまして、部活動の地域移行を本市としてどういう形にしていこうかというのを現在検討しながら仮実施というところですので、今後、渡邊委員のように何かご提案をされるとか、お力がありましたら、ぜひお聞かせ願いながら本市のために進めていきたいと考えております。

佐藤委員

働き方改革もありがたく、とても工夫してくださっていると思います。在校の時間が減ってきているというのは、たぶん持ち帰りの仕事というように、そこはどうかといつも思っているのですが、そういう調査はしないものなのかということ、時間だから帰って、持ち帰って時間が増えている人は何にもならないと思うので、でもそれが正確な時間として把握するのは難しいことだと思うのですが、この在校の時間が減ればいいというものではないと少し思っています。だからといって、やり方を変えて欲しいということでもなく、ちょっと矛盾があるかと思いました。

植田学校教育課管理担当主幹

持ち帰り時間については、ここの中の数値には入っておりません。職員によっては個人情報とか、成績処理で持ち帰ると不祥事にもなるので、学校でやりたいと言って、土日にそときてやっている方もいらっしゃいますが、この調査については、学校にきたらその時間も入れてくださいと、これがオーバーしても現実として構いませんとしています。私たちがこれを読み解く時に、確実に減っていることは確かだと思っておりますが、見えない氷山の部分はあるだろうと思っておりますので、やはりこのプランを改定して、まだまだ働き方改革、現場の先生方の意識もそうですし、我々が教育委員会として、先ほど地域の話もありましたけど、学校でやるのではなくて、地域にもっと理解してもらおうこととか、我々の仕事もあるかと思っておりますし、今現場から一番、声があがっているのは、例えば残業時間代のお金でもなく、人が欲しいと、人が増えれば安心して少し休憩が取れるとか、午前いっぱいトイレも行けなかったのが、行けるようになるというお話をいただいております。今後も働き方というのも現場と一緒に考えていきたいと思っております。

諏方学校教育課長

佐藤委員の答えになりますけども、学校、教育委員会を含めましてICTの校務支援システムを活用しながら先生方がなるべく事務仕事で時間が掛かるものを削減するということであるとか、令和4年度から教育課程を見直そうということで、小学校は、今まで3時40分前後の下校だったのですが、見直しによりまして、30分、40分、子どもたちの下校を早くすることによって4時半くらいが退勤時間になりますので、先生方が90分くらい子どもたちが帰ったあとに事務時間が増え、また中学校においては、4時半に部活動を終了するというような学校も出てきております。そういった教育課程を少しずつ工夫することによって先生方が少しでも持ち帰り仕事がなくなるとか、勤務時間内に業務が終わるよというところで働き方改革を進める中で今、いろいろ変わってきているというような状況でございます。

粕谷教育長

働き方改革の2期プランがスタートしようとしている段階ですので、まだまだ先があるかと思っておりますので、またみなさんのご意見いただきながら本市の働き方改革を進めていけたらと思います。

粕谷教育長

他に質問等も無いようでございますので、これより、非公開審議に入ります。

議案第1号 令和6年度君津市優秀な教職員表彰について

茂木教育部次長の説明後、質疑を行い、原案のとおり可決した。

粕谷教育長

本日の議案はすべて終了いたしました。その他、委員の皆さん又は事務局から何かございますか。

粕谷教育長

他に無ければ、以上をもちまして令和7年第1回君津市教育委員会会議を閉会いたします。
お疲れ様でした。

以上、会議の顛末を記載し、事実と相違ないことを証するため署名する。

令和7年2月6日

君津市教育委員会教育長 粕谷哲也